



NO40 発達障がいのある子どもへの理解と対応

— 教育センター公開講座から part6 —

前回は、「学級での対応」の“一般的戦略”に関する内容でした。公開講座シリーズ最終回の今回は、学級でいろいろな困り感を抱えているお子さんへの“特別な戦略”についてお伝えします。

不安や緊張

⇒ “分かりやすい対応を”

- ・「まず見せて、それからしてみせて、言って聞かせて、して見せて、やらせられるようならさせてみて、褒めてやらねば、自閉症の世界を持つ子供は動かぬ。」
- ・一度に複数の情報を提示しない。
→話すときは話すだけ、見せるときは見せるだけ。
- ・過敏性に対する配慮と情報収集
→コントラストが強すぎると認知できないこともある。
- ・一貫した対応
→予定を変更しない、どうしても時は予告する。
- ・あいまいな表現はしない
→不意打ちやびっくりさせるようなことは避ける。
- ・こだわりは、精神安定剤として有効活用する。
- ・最初の手がかりをはずさずに、始まりと終わりをしっかりとする。

学業不振

- ・必ずやり遂げられるように構成された課題。
- ・説明を補足し、簡単・簡潔に。
- ・得意教科、得意な作業に光をあてる。

不注意

- ・邪魔なものは、注意散漫にならないよう机や教室から排除する。
- ・単純明快で簡潔な指示を心がける。
- ・気が散らないように、最前列、教師の近くに座らせる。
- ・机と机の距離を取り、容易に四方の生徒に手が伸びないように配慮する。

多動性

- ・大切なことは、多動性を抑えようとせず、「動ける保障」をすることである。
- ・授業中に小休止を設定したり、ストレッチ体操などを取り入れたりする。
- ・子どもに完璧な態度を求めず、多少の態度のだらしなさは容認する。
- ・移動教室使用時は、単独行動でなく、グループで移動させるか、何らかの役割を持たせる。

衝動性

- ・些細なことは出来るだけ無視し、なにかよい場面があれば、すぐに褒める。
- ・正しい行動、行為を明記したものを眼につくところに示しておく。
- ・「廊下は静かに右側を歩こう！」など、どんな行動をすればよいか分かるように肯定的な表現をし、禁止文で表現しない。
- ・どうしてもよくない行動（興奮・乱暴）に対しては、説教や批判をせず、その場から離し、一人で考える場所と時間を与える。落ち着いたら、その行動を責めるのではなく「どうしたらよかったのか？」を尋ね、そのために必要なよりよい行動を伝えるため、実際にロールプレイなどで示し、その子から意見を聞く。
- ・あらかじめ行動のルール、約束を取り決めておく。（約束が守れた時は賞賛する。）

アルフレッド・アドラーの教え

子どもを助ける方法は必ずある、もしうまく行かない場合は、我々大人の対応の問題である。